

【事例2】

ご飯を食べたのに「まだご飯を食べていない」と言い張るのですが…



＜対応例1＞

「ご飯の用意をするので、できるまで待っていてください」と声をかける。

＜対応例2＞

お茶やお菓子、果物などを出して、「これを食べ待っていてください」と伝える。

（あらかじめ、1回のご飯の量を少なくしておくとお食べ過ぎを防ぐことができる）

＜対応例3＞

1日の摂取カロリーを計算し、その中で食べる回数を調整する。

（食べたいという気持ちを我慢することが難しいため、少量でも食べられることで安心感につながる）

＜対応例4＞

食後に、食べ物から関心をそらすような軽いレクリエーション、簡単な家事や作業を頼むと、本人の達成感にもつながり、よい気晴らしになる。

（食後にゆっくり過ごしていると、食べ物に関心が向きやすいといわれている）

本人の
気持ち

- ・ご飯を食べさせてもらえない
- ・家族にいじめられている
- ・満腹感が感じられない
- ・空腹感がある

望ましくない対応例

- ・「さっき食べましたよ」と食べたことを説得する
- ・次の食事時間になるまで、食事を与えない

⇒被害感情や不安感を強め、怒りや暴言・暴力などに発展する恐れも

